

# 緑生瓦版

2010.05.01

第二十六号

システムと情報で保護、増殖

昨年度我が社では、東京都の絶滅危惧植物の情報収集を目的として、地域の植物愛好家団体の方々にヒアリングを行いました。また、その情報を基に、種ごとの生育場所や生育環境の情報整理を担当しました。この取り組みは、東京都立神代植物公園が、絶滅危惧植物の保護・増殖の取り組みの一環として行っているものです。植物の保護・増殖という言葉から、データベース整備を連想し難いですが、絶滅危惧植物の分布や生育情報を把握しなければ保護は出来ないため、データベース整備も重要な保護・増殖のワンステップと感じました。ゆくゆくはこのデータベースを介して、地域の方々がモニタリングを行うてくださるようになり、継続的な情報蓄積が進むことを願う次第です。そこに至るまでの課題は多いですが、こうした環境保全のための仕組み（システム）づくりを今後も手掛けて行きたいです。

計画部  
宇津木 栄津子

## 緑生研究所って、どんな会社…？

### ～ GISによる植物の生育立地評価と分布予測の巻 その1～

当社では、植物・哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類・昆虫類・水生生物など各項目の現地調査を実施するとともに、現地で作られた分布情報のデータをもとに、地理情報システム（GIS）を用いて生育・生息立地条件の分析や潜在的な分布可能域の予測などをおこなっています。今回は里山の林床植物を対象とした分析事例をご紹介します。（計画部 伊藤休一）



#### カタクリを対象とした事例

カタクリの分布地点情報

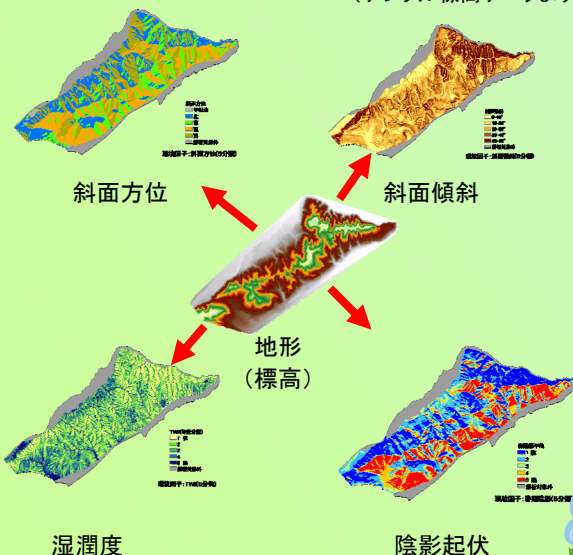
どのような環境を選好しているか、地形や植生などの各環境因子に対する好適性の指数（選択度指数）を計算

好適性の指数に基づき、潜在的な好適地を図化

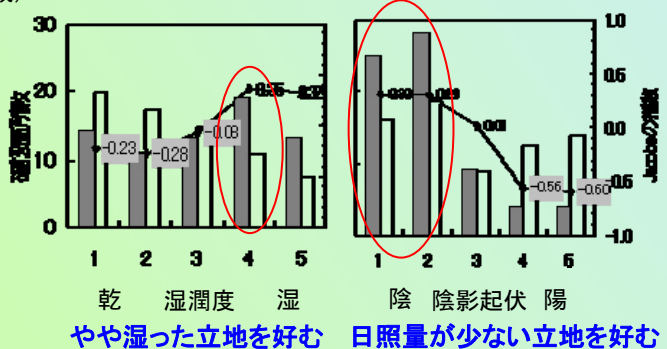
- 里山の林床植物の生育立地評価と分布予測 -  
春植物（スプリング・エフェメラル）に代表される丘陵地里山の林床植物は、局所的な光条件や水分条件、地形の微細な凹凸などの諸条件によって生育環境が規定されます。これらの条件を、GIS上で適切な環境因子データとして表現することが分析成功の鍵となります。

#### ■ 里山の林床植物の生育立地評価で考慮した環境因子

(デジタル標高データより作成)



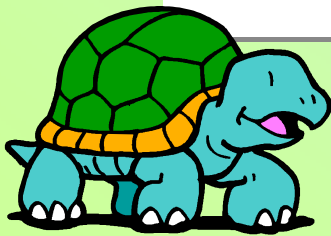
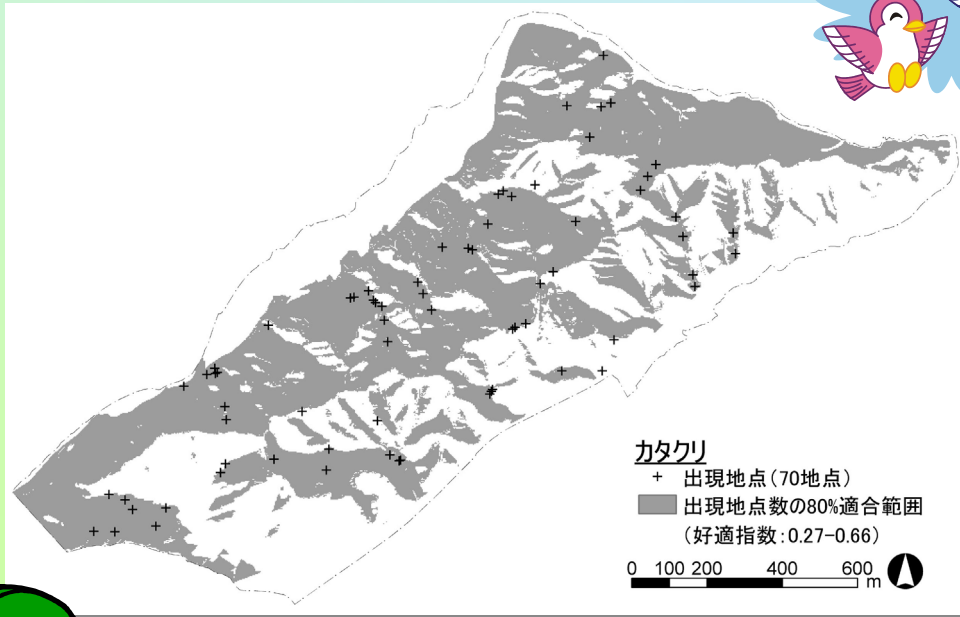
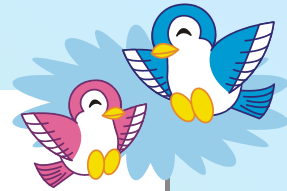
#### ■ 環境条件の傾度とカタクリの立地選好性



棒グラフ：カタクリ確認箇所数  
(黒:実測値、白:期待値)

折れ線グラフ：カタクリの選択度指数  
(値が高い程その環境を好む)

■カタクリの潜在的生育適地



環境の選好度の指数をもとに予測されたカタクリの生育適地(灰色の部分)。北斜面を中心に、やや湿った日照量の相対的に少ない立地が抽出されました。



**アンケートのお願い!**

Q.「緑生瓦版」のなかで取り上げてほしい内容や、ご意見、ご感想などを教えてください。

差し支えなければ、会社名、所属、氏名をお教え下さい。

会社名： \_\_\_\_\_ 所属： \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

ご協力ありがとうございました。

恐れ入りますが、アンケートの回答は、**緑生研究所(坪山)宛に FAX(042-487-4334)** をお願いいたします。

**編集後記**

お読みいただき、ありがとうございます。  
 第二十七号は、七月一日の発行を予定しています。  
 特集では今回に引き続き『GISによる植物の生育立地評価と分布予測』として、河川敷の植物を対象とした事例を紹介いたします。

昨年から自主研究としてニホンジカの追跡調査を行っています。取付けた発信器の脱落時期が間近に迫っています。記録された行動データを見るのは楽しみですが、その前に発信器を無事に回収しなければなりません。人が近づけないような崖や谷底で脱落しないことを祈るばかりです。  
 研究の成果については改めて、ご報告したいと思います。

